



かみさと  
 議会

平成28年度決算を認定  
9月定例会一般質問に5人  
議会閉会中の委員会活動報告  
追跡！一般質問

手と手をつないで。



より安心して  
子育てできるまちへ…

77

第5回  
9月  
定例会

9月4日~20日

9月定例会は、9月4日に開会され、議員5名の一一般質問と平成28年度決算認定を中心とする町長提出議案16件他を審議して20日に閉会しました。定例会で審議された内容をお知らせします。



■平成28年度決算を認定  
■平成29年度一般会計他補正予算を可決

◆補正予算◆

議案第53号・57号

平成29年度一般会計補正  
予算(第4・5号)

**概要** 歳入歳出それぞれ7億1316万円を追加し、予算総額を歳入歳出それぞれ91億1892万2千円とするものです。  
**原案可決**

この他に、国民健康保険特別会計、介護保険特別会計、水道事業会計の補正予算が提出され、原案のとおり可決されました。

平成29年度  
補正予算(第4・5号)

- 主な事業
- いきいき福祉基金積立金 2億円
- 道路新設改良事業 1850万8千円
- 農業振興事業 4415万4千円
- 庁舎管理事業 倉庫解体新築
- 設計業務委託料 242万5千円

◆人 事◆

議案第58号

固定資産評価審査委員会  
委員の選任について

**概要** 委員である内田安恵氏が、平成29年9月29日をもって任期満了となるため、後任として岡田政雄氏を選任するものです。  
**同意**

議案第59号  
教育委員会委員の任命について

**概要** 教育委員である川浦計男氏が、平成29年9月30日をもって任期満了となるため、後任として阿久戸嘉彦氏を任命するものです。  
**同意**

◆意見書◆

意見書第12号

森林環境税(仮称)の早期創設及び林業の成長産業化と森林の適切な管理の推進を求める意見書(案)について  
**原案可決**

意見書第13号

残業代ゼロ法案「高度プロフェッショナル制度」の撤回を求める意見書(案)について  
**原案可決**

意見書第14号

核兵器禁止条約の調印を求める意見書(案)について  
**原案可決**

平成28年度の決算額等については、「広報かみさと10月号」に詳しく紹介してありますので省略し、監査委員が議会で報告した「監査意見書」の中の審査結果及び意見の概要（抜粋）を掲載します。

歳入の中心的な役割を果たしている町税は、前年度に比べ6,199万3,401円、率にして1.62%の増額となっており、これを受けて今年度の自主財源構成比率は、前年度に比べ3.1%増加の55.5%となっている。一方、地方交付税は前年度に比べ8,778万6,000円、率にして6.9%の減額となっている。この結果、町の財政指標である経常収支比率は、前年度に比べ4.1%悪化の83.0%となり、財政の硬化化の傾向がうかがえる。

平成28年度は、職員数の抑制、特別職の給与の削減や事業見直しなどによる行財政対策の実施により、歳出の抑制と削減を図ってきている。今後は地方債の償還の増加に伴う償還財源の確保や、諸経費のより一層の削減とともに、行政の簡素化や効率化に努め、かつ計画的な行財政運営による健全財政の維持を図り、少子高齢化による環境変化に対応した行政サービスを、町民へ安定的に提供できるよう望む。

※水道事業・下水道事業決算については省略します。

## 平成28年度 決算審査報告 ～すべて認定すべきものと決定～

各常任委員会における決算審査についての委員長報告（抜粋）を紹介します。



総務経済常任委員会  
委員長 戸矢 隆光

コミュニテイバス『こむぎっち号』については、昨年に引き続き様々な意見が出ました。利用者数が増えない、2コースから4コースになったものの目的地までの時間がかかる、費用に見合う効果が必要なのは、抜本的な見直しが必要なのではないかという意見も出ました。バスの利用については住民の関心も非常に高く、今後も引き続き、尚一層の研究をお願いしたい。

全国各地で問題になっている政務活動費について、精算払いを導入するなど、より一層明確な使われ方について、今後調査研究していく必要があるのではないかと意見が出ました。

高齢者が多くなり地域住民の交流も少ない今、地震や台風・集中豪雨などの災害について住民の不安は年々大きくなっている。主たる地域には火災時に出勤する自衛消防隊はあるものの、災害時に避難誘導や避難所の開設のサポートをしていただく自主防災組織の設立は遅れている。モデル地域を定め、町主催の研修会などを開催し設立に向けて進めていただきたい。

遊休農地の解消を目指して今後も積極的に取り組んでいただきたい。また上里土地改良区については老朽管の漏水が大きな課題となっている。今後は地域における除草作業の負担も大きくなることから、多面的機能支払交付金を活用しながら、地域が主体となってカバープランツなどを有効に取り入れていく必要があるのではないかと。

下水道事業の今年度の新規加入者は30件で前年に比べて4件の減。接続率についても相変わらず低く、加入促進と併せて引き続き粘り強く一層の努力をお願いしたい。



文教厚生常任委員会  
委員長 齊藤 崇

新規の取組みとして、子育て世帯に対する支援を拡充するため『上里町こむぎっち子育て10のサポート事業』を実施。特に出生から1歳になるまでの間に購入したおむつ等の費用を上限1万円として補助する『乳児おむつ購入費助成事業』においては、利用者の視点に立った申請手続き等により、効果的、効率的に実施するよう努めて頂きたい。

平成26年度において新たに制定された『こむぎっち体操』、27・28年度に整備された『こむぎっちウォーキングサーキットコース』については、全町民に対しての普及・推進に更なる努力をお願いします。

健康推進事業については、『健康増進計画・食育推進計画』に基づき、ヘルスプロモーションによる事業推進のため、日本女子体育大学と協定を結び「毎日1万歩ウォーキング」に取り組んでいます。今後も官学が連携し、町民自らが主体的に取り組めるよう事業の推進を期待します。

国民健康保険特別会計は、28年度においても単年度収支は赤字で一般会計等から補填され実質収支額は黒字となっていて、依然として同様の状況。今後は国保の広域化と併せて検討を進める必要があり、慎重に進めていく事をお願いします。

上里中学校に防犯カメラを設置、これで町内全ての学校に設置が完了、学校施設での学習環境が向上。また各小中学校においても老朽化が進み、修繕等が発生することが予想され、計画性をもって、またタイムリーに対応して頂きたい。

「かみさと荘」は、41年が経過しており劣化が随所に表れているため快適に利用できるよう施設の維持管理及び運営について引き続き努力されますよう要望します。

# 平成28年度決算に対する各常任委員会の意見と要望(抜粋)

決算審査を9月8日より9月14日までの5日間にわたり、担当する課長及び担当職員の出席を求めて、歳入歳出決算書及び付属資料、並びに決算説明書をもとに、各課の決算内容の説明を求めました。

## 主な課題と論点！

### 総務経済常任委員会

#### こむぎっちは改善が必要では？

**問** こむぎっち号について、住民から不便であるという指摘を受ける。担当課として努力はされていると思うが、根本的な改善が必要なのではないか。

**答** これまでにも様々なご意見をいただいている。課題が多いことは認識しており、平成29年度の地域公共交通活性化協議会の事業計画に、改善点の検討を行うことを盛り込んだ。

#### 災害時の避難について

**問** 高齢化により自主避難が困難な場合、地区集会所に避難する人なども考えられる。そういった場合も物資の供給はできるのか？

**答** 耐震の問題なども含め、避難所を指定している。地域の助け合いで避難所への避難をお願いします。



総務経済常任委員会による現地視察

#### まち・ひと・しごと総合戦略の成果は？

**問** 婚活事業の成果はどのようか。

**答** 主催事業、支援事業併せて、男女どちらかが上里町民のカップルは3組成立している。結婚の報告まではいただいている。

#### 配水管(水道)の更新は？

**問** 老朽管(40年以上経った管)は、よほど更新をしていかないと追いつかないのではないか？

**答** 40年が減価償却の耐用年数の基準ですが、40年を過ぎたらすぐに使えなくなるものではありません。使用者の多いところなどは漏水が起きた場合に影響が大きいので、そういうところから優先的に更新を計画しています。

#### 町の財政計画について

**問** 今後の財政計画はどのようか。

**答** 今後、扶助費が確実に伸びていくことが見込まれる中で、各小中学校の維持補修や大規模改修による費用が膨大になることが懸念される。平成28年度の基金の決算状況を見ても、全体で37億程度ある内、教育施設整備基金については、今回の9月補正で1億5千万の積立を行うが、それでも総額で3億5千万程度しかない。今後さらに基金が必要となってくるので計画的に積立を行っていきたい。

### 文教厚生常任委員会

#### いきいきスタンプラリー事業の充実を

**問** 今後もいきいきスタンプラリーを充実させ、更にアピールしてもらいたい。

**答** がん検診の受診率向上のために始めた事業ですが、今後はマイレージ事業への移行も考えています。平成31年度以降実施できるよう検討しています。

#### おむつ助成金について

**問** おむつ助成金はH28の出生数が177に対して96件しか申請がない。町民福祉課とタイアップするなど、工夫が必要では？

**答** 申請は誕生日の前日までなので、H28に生まれた方のうちまだ半分しか来ていない。平成28年度中の出生であっても、申請は平成29年度になるというケースがあります。

#### 「出生祝い金」を作るのはどうか？

**問** 「出生祝い金」というのを作るのどうか？

**答** それも良さはあるが少子化対策だけでなく「定住」の意図もある。「おむつ助成」は、まちひと・しごと総合戦略にも入っている事業なので、検証していく必要はある。



文教厚生常任委員会 決算審査風景

#### こむぎっちちよっくら健康体操の普及率は？

**問** こむぎっちちよっくら健康体操の普及率はどのようになっているか？

**答** 平成27年度4地区、28年度8地区、29年度4地区、合計16地区で立上げをしています。

#### 特定健康診査の啓発事業は？

**問** 特定健康診査の受診率が低いが、それに対する啓発事業は？

**答** 平成27年度から集団健診の回数を1日増、集団健診の無償化、個別健診の実施などに取り組んでいます。これまでは個別健診の受診勧奨を受診履歴のある方のみ対象としていましたが、28年度は未受診者全員に受診票を同封して行いました。今後も受診率向上のため受診環境や料金等について改善に努めていきたい。



# 新井 實

## 一般質問

### 問 上里北中学校の改修は？

答 総合的な視点から計画的に進めていく必要がある

#### 質問1 老老介護の心配

問 高齢者が高齢者を介護する「老老介護」が広がっていて、双方の暮らし全体を重層的に支える体制整備の急務について。

答 在宅介護サービスの定期巡回の随時対応型訪問介護看護については、平成27年度に公募をし、平成28年4月1日に1事業所を指定。平成29年6月サービスでは、町内11名の方が利用。また小規模多機能型居宅介護については、町内にはないが、同時点で5名の方が町外の小規模多機能型居宅介護事業所を利用している。介護保険の軽度者向けのサービスのうち、デイサービスとホームヘルプサービスは平成28年3月、町の総合事業に移行し、自立支援と多様な担い手による多様なサービスの創出を目指し実施している。介護者の支援については、認知症介護者の支援に重点を置き、家族の息抜き、家族同士の情報交換や専門職の助言が受けられる場として、認

#### 質問2 医療・介護費を抑えることについて

問 医療・介護費を不断の改革で膨張を抑えることについて。

答 上里町の平成28年度の医療・介護費については、国民健康保険が27億6700万円、後期高齢者医療費が26億6300万円、介護保険給付費が14億1300万円となっている。医療費に関しては、患者がごく初期の健康問題について、まず地域の家庭医を受診し、多くの相談に応じて適切に専門医を紹介する仕組みづくりが大切だと思えます。またお互いの役割分担を推進し、重複受診や多重検査が減ること、医療費給付の抑制に効果があると考えます。介護費に関しては、町では『こむぎつちちよくら健康体操』に地域で取り組んでいただき、日常生活に支障がある生活行動を改善して自立支援を目指

#### 質問3 民生委員のサポートについて

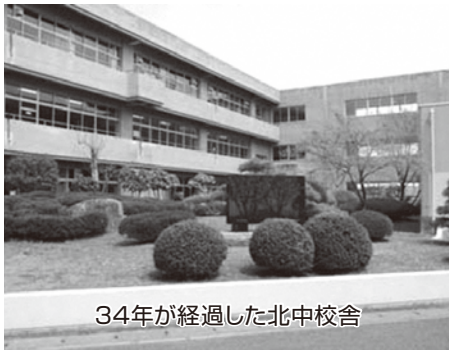
問 民生委員は高齢化の進展などによって「地域の福祉の担い手」として重要性が増す一方、負担の重さが課題になって、民生委員をサポートする取り組みについて。

答 民生委員・児童委員は、高齢者や障害者、児童を中心に幅広い地域住民の様々な相談に応じ、援助に努めることが職務の大きな柱であることから、町民福祉課や高齢者いきいき課、子育て共生課、社会福祉協議会などの各福祉担当職員が、民生委員・児童委員協議会の定例会の際に、各福祉分野の説明と担当者の紹介を行っている。そして緊急時や判断、対応に迷った場合などには、民生委員・児童委員協議会事務局である町民福祉課や内容によっては、直接関係する部署や機関へ気軽に相談や情報提供できるよう、各福祉関係部署や機関と連携を図っている。

#### 質問4 上里北中学校の改修について

問 上里北中学校全校舎と付属施設の屋根及び外壁の塗り替えについて。

答 上里北中学校の校舎棟及び付属施設の屋根や外壁の塗装については、築後34年が経過し、付属施設も老朽化が進行していることから適切な修繕や改修を早期に行うことが望ましいと考えられています。費用が高額となることや工期についても長期間に及ぶことが見込まれることから総合的な視点から計画的に進めていく必要があると考えています。



34年が経過した北中校舎



# 仲井 静子

## 一般質問

### 問 アクティブ・シニアの活躍推進への取り組みは？

**答** 高齢者が地域で活躍し、生き生きとした生活が長く送れるよう研究したい

**質問 1** アクティブ・シニアの活躍推進への取り組みについて

**問** 超高齢化社会でも、町民ひとりひとりが仕事や家庭生活、社会貢献などで生きがいと充実感を得て人生が送れるように、元氣な高齢者が活躍できるように、元氣な高齢者が活躍できる体制を整える必要があると考えますが町の体制づくりは。

**答** アクティブ・シニアの活躍推進における町の体制づくりは、これからであり、県や他市町村のアクティブ・シニアの活躍推進の取り組みを研究し、元氣な高齢者が経験を活かしながら地域デビューして頂けるよう進めていきたい。

**質問 2** 家族介護者の取組について

**問** 高齢化と核家族化が進む中、社会全体の課題となっているのが介護問題で、そして平均寿命が延びるにつれて深刻になってきたのが、高齢者同士に

よる老老介護と認知介護の問題。困った時は、介護者が一人で悩みを抱え込まない対策として家庭で介護する家族を支える上里町地域包括支援センターの役割はますます重要であり、サービス基盤の整備を進めておく必要がある。



安心して家族介護できる仕組み

**答** 現在職員体制は整っています。2025年を見据え、地域包括支援センター2カ所の増設、またはプランチ（窓口）の設置を盛り込みました。今後は、センターの増設やプランチの設置に向けて調査研究し、各課は地域包括支援係の役割や業務量を調整し、他市町村の人員体制等も参考に検討したい。

**問** 複数の疾病を抱えている高齢者は、処方される薬も多いことから、同じ効用の薬を飲む、飲み間違える、飲み忘れるなどの問題が起ります。適切に服用できない為症状が悪化、時には命に関わる深刻な事態も考えられます。このような状況の中で、在宅高齢者が安心して在宅生活を送る為に、他職種との連携が円滑に出来る体制づくりは出来ているか。

**答** 医療職と介護職の関係づくりとして、医師・介護士・薬剤師・歯科医師・ケアマネジャー・デイサービス職員など、二人の要介護者を支援する為の関係者がSNSを介してつながり、今後は、薬剤師が服薬指導や残薬確認なども実施し、薬の飲み残しなどが整理できる支援が出来ると思う。

**問** 身近なつながりを見つめ直す、地域デビュー講座を、一般の方にも開催を。

**答** 民生委員・区長さんだけでなく、一般の希望者にも講座に参加して頂けるよう配慮して

いきたい。

**問** 「高齢者福祉計画」の中に、介護支援ボランティアポイントの活用（ボランティア活動、1時間につきスタンブー1個、集めて商工会商品券と交換できる）と計画されていますが、町では実施していません。

**答** 町では、導入に至っていません。是非早急に上里町も他市町村を勉強し、ポイント制度の確立に向け努力していきたい。



飲み残しの薬を減らすには…

**問** 飲み残しの残薬、年間500億円です。医療費削減の取り組みとして独自のポスターづくりを。

**答** 全く聞けばもったいない話。町として検討し、そういう制度の確立の為に、少しでも残薬を減らす為に、努力していきたい。



# 戸矢 隆光

## 一般質問

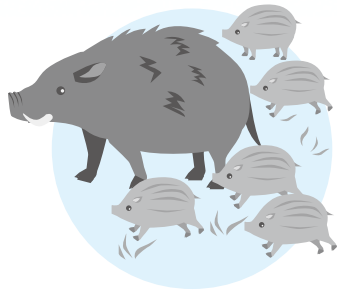
**問** 現在6基のワナで対応  
補助金などを出し前向き対応しても良いのでは

**答** 免許が必要 啓発活動に努める  
購入費助成について検討

### 質問1 農作物の鳥獣等の被害 について

**問** オリの中に入ったアライグマ、今年捕獲した中では小さいと言っていました。平成27年度の県の野生鳥獣による被害は40町村で被害金額1億2026万円という数字が出ていました。町は平坦な地域でイノシシやサルによる農作物の被害は今までありませんでしたが、昨年の秋にはイノシシの目撃情報などが寄せられ、防災無線などで注意喚起がなされました。近年には、自分の家の近くにハクビシンが屋根裏に住み着いて困っている、アライグマが収穫間際の家庭菜園や果樹園に入り込んでいるところを何回か見かけたなど

被害が少ないうちに対策を



ど、これらを多くの人が目撃を  
しており、被害が少ないうちに  
効果的な対策を取るの良いの  
ではないか。

**答** 県では平成19年3月からアライグマ防除実施計画を策定、町でも防除を進めている。町の捕獲数は平成28年度12頭、29年7月末までに7頭が捕獲をされているが、農作物の被害状況については把握に至っておらず、県の防除計画により箱ワナを貸与され捕獲処分を行っている。現在は第3次計画期間に入っており33年3月31日まで行う期間と定めている。ハクビシンや狸の捕獲には期間や免許等の制限があり今後検討をしていく点がある。箱ワナは現在6基管理、捕獲要請の対応に充分とは言えず今後の捕獲頭数の推移を注視したい。

**問** 現在6基のワナで対応とのことですが農家の人で持ちたい人もいるのではないか。補助金などを出し前向きに考えても良いのではないか。

**答** 箱ワナの設置には免許が必要で、従事者の養成をするため

の啓発活動に努めていくと共  
に、有効な防除対策を検討する  
中で器具等の購入費の助成のあ  
り方について検討したい。

### 質問2 町のPRについて

**問** 女性水上飛行機操縦士西崎キク先生、日本一の種子小麦の産地など町外に発信できるものがあります。今年も小学生による意見発表が行われ、自然が豊かな町、特産の野菜や小麦を通して町のPRをといった意見が出され子ども達は町に誇りを持っており、これらの実現に向けて持っていくのが私たち大人の仕事ではないか。上里町に初めて来た人はどの様な町なのか。何が有名、何が特産なのか。分かりますか。町によっては聞くことがある。町によってはヨーケースの中に町の偉人や有名人の貴重な資料などが展示されている所や、また企業の紹介や製品が陳列され商工業の発展に寄与して所などがありました。

また、これまで以上に広報やホームページを活用し広く情報を提供をしたい。

これらに比べ上里町のPRはまだ  
まだ足りないように感じるが。

**答** 町のPRの現状は西崎キクさんの資料については男女共同参画センターに展示中であり、看板なども設置している。又、マラソン大会などは全国から参加を頂いている。こむぎっこのペイントや広報用パンフレットも配布をしている。ヨーケースの各種展示については課題もあるので近隣自治体の展示方法も参考にし検討したい。

**問** 七本木小の自転車乗り県大会優勝、2年連続全国大会出場  
上位入賞など町民ホールに称えて頂き、これも町のPRになるのでは。

**答** 47都道府県中6位という輝かしい成績を取ったわけで皆さんの優秀な偉業をたたえると共に新聞等が残っており、町民ホールに展示が出来ればと思っております。今後検討をさせていただきます。



# 一般質問

## 飯塚 賢治

### 問 災害時避難所等において災害対応型自販機の設置を！

答 株式会社ナックとの協定によりお湯の提供も可能、対応していきたい



### 質問1 災害時支援協定について

問 災害時に避難所等において、お湯等、飲料の提供できる災害時対応型カップ式自販機の設置及び災害協定の締結を検討すべきでは。

答 災害時対応型カップ式自販機の設置については、(株)ナックとの協定によりお湯の提供も可能な状況なので対応してまいります。



災害対応型自販機

問 様々な災害に関する情報を住民の皆様がいつでもどこでもアクセスできるようヤフージャパンとの災害協定を行うことについて。

答 現在はアラートという情報伝達手段があり、災害時の避

### 質問2 障害者を支援する施策の促進について

問 本年7月3日飯能市で聴覚障害者向け窓口トータル支援システムを導入した。上里町では、聴覚障害の方、外国語だけを話される方、言語に障害をお持ちの方など対応はどのようにされているか。

答 聴覚障害者の方などへの町の対応状況は、筆談による意思疎通をスムーズに伝えるよう平成27年に電話メモパッドを5台購入。役場1階の窓口業務担当部署への支援として、ファックスやメールで申込みにより、手話通訳者を派遣ねがい、官公庁や医療機関などで支援していただいている。外国語だけを話される方への窓口支援は、通訳者の方と一緒に来庁されるケースがほとんどです。

問 障害者サポート事業、タイムケア利用料の見直しについて、昨年6月定例会で質問時、他の福祉サービス料金のバランスや近隣市町の動向、財政負担の

見直し等を考慮し見直しを検討していきたいとの答弁でした。その後どのような検討がなされ、今に至るのかご説明願いたい。

答 県の状況は、各市町村から補助金増額の要望があるが、県の基金を取り崩して財源としていくことからいつまで事業が継続できるかわからない状況です。法定の障害福祉サービスの充実や介護保険事業とのバランス、近隣市町の実施状況や県の事業実施の見直しなど総合的に勘案すると現状では困難であると考えます。

### 質問3 社会性発達評価を自治体健診で行いつつとついつつ

問 かおテレビを使用した発達障害の早期発見及び早期支援のため、是非注視して導入時期を検討していただきたいが。

答 今後、有用性が認められれば、健診等で幅広い活用が期待できると思うので、実証検証の効果を見守っていきいたいと考えている。





# 沓澤 幸子

## 一般質問

### 問 「核兵器禁止条約」について、町長の見解は

**答** 大変意義ある条約 戦争被爆国として核保有国に働きかけていただきたい

### 質問1 平和事業について

**問** 「核兵器禁止条約」が採択されましたが、日本政府は交渉に参加せず、署名もしないと表明していますが、関根町長の見解を伺います。

**答** 世界平和に向けた大変意義のある条約で、核兵器のない安全で平和な世界を望んでいる。日本政府の立場もわかるが、戦争被爆国として、日本にしかできない訴えを核保有国に働きかけていただきたい。

**問** 戦争体験者が高齢になり、語り継ぐ取り組みが重要です。町が主体的に平和事業に取り組み、核兵器廃絶国際署名の積極的なPR、「核兵器のない平和で健康的な都市づくり宣言」看板を役場敷地内に設置しPRすること。

**答** 世界では平和維持活動の大きな転換期を迎えています。国を初め地方公共団体も、様々な事業を実施することが平和維持の重要な要素と考えます。平和

### 質問2 グランドカバープランツ計画について



事業の積極的な参加と協力はしたい。看板設置の他に終戦記念日等に合わせ懸垂幕の設置も可能か検討したい。

**問** 農業用排水路の草刈り等、住民の負担軽減のためのグランドカバープランツ計画と多面的機能支払交付金の使い方検討の進捗状況と、モデル地域を決めて住民の理解を得たカバープランツを全町に広げる計画は出来ていますか。

**答** 交付金は、排水路の浚渫を主要目的としながら、昨年度か

### 質問3 公共施設等総合管理計画について

ら草刈り、泥上げ、カバープランツの3事業に活用しています。29年度は大御堂、立野、本庄市新井の3カ所350mを実施し、順次進めたいが何年計画までは至っていません。

**問** 指定通学路の除草対策の委託費用と通学路のグランドカバー計画について。

**答** 通学路の除草作業は、道路の修繕等と合わせ、今年度委託料は500万円です。今年度から植栽帯などでカバープランツの効果的な植栽方法を検証したい。

**問** 3月策定の「公共施設等総合管理計画」では、公共施設の延床面積を2056年度までに20%削減とあります。将来人口の推移にもよりますが、必要な施設と早急に判断すべき施設もあり、中長期計画について伺います。

**答** 現在は、各施設の建築年度や劣化度合い、利用状況など基礎資料となる施設カルテを作成中です。それが出来次第、統廃合や複合化等を検討したい。総合管理計画の中で方針が示された施設は個別に検討を開始します。必要に応じ計画や目標値の変更も視野に推進したい。

**問** 公共施設の個数や面積以外に維持管理費の縮小のため、電気をLED照明に切り換えること。

**答** 現在は上里北中の体育館と町民体育館の照明器具の検討を進めており、今後、総合管理計画で存続や更新する施設においては、LED照明の導入を前向きに検討しコスト削減に努めたい。



10月27・28日 視察先:茨城県つくば市・ひたちなか市

○防災科学研究所

災害全般を研究し、土砂崩れの実験や民間の住宅メーカーによる木造の耐震工法についての研究が行われていました。民間業者や各公共機関からの申し出があれば施設の貸し出しや共同研究なども行うとのことでした。



全国各地に設置してある地震計の設置数では一番多く、これらにより地震のメカニズムを研究。地震を直接体験するブースもあり、新潟中越地震や東日本大震災、都会のビルの30階の揺れなどの体験ができました。改めて当時の揺れの激しさを感じました。

○サイエンス・スクエアつくば(産総研)

技術を産業化につなぐための橋渡しを強化しながら公的研究機関としての中核的・先駆的な役割を果たすことを目的として、旧通産省の15の研究所と計量教習所が統一して2001年4月に設立。

様々な展示品の中でも世界に誇れるものとしてロボットがあり、フランスの飛行機メーカーの機体溶接ロボットとして日本製が使われているとのことでした。

○ひたちなか市:震災後に講じた防災対策・ゼリー状安定ヨウ素剤の配布事業について

ひたちなか市の一部が東海第2原発の半径5km圏内に含まれ、全域は半径30km圏内に含まれるため、万が一原子力災害が発生した場合避難等を要するときに安定ヨウ素剤をすべての住民に混乱なく配布するのは難しいため独自に住民に配布するといった事業。説明会をしてから配布については手間の問題や会場の問題があるため、市の広報やホームページ・チラシやポスターにより周知をし、配布については薬剤師会と協議を重ね薬局配布方式としたとのことでした。



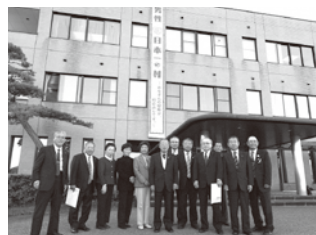
震災後は自主防災組織を立ち上げ、各避難施設に防災倉庫を設置したこと、災害時相互応援協定締結都市や防災無線などに関する事など、委員の質疑に丁寧な説明をいただきました。

今回の視察研修に参加をさせていただき、日本の技術の素晴らしさ、災害に対し、防災・減災の研究をしている人たち、東日本大震災を体験した自治体には私達がまだまだ多くを学ぶべきことがあり防災・減災の必要性を感じた視察研修でした。

11月7・8日 視察先:長野県松川村・高山村

○松川村「男性長寿日本一の村」

男性長寿日本一の村として、メディアでも取り上げられ、ご存知の方も多いのではないのでしょうか。「高い就業意欲や積極的な社会活動への参加による生きがいを持った暮らし」が起因しているようです。



村の福祉課健康推進係が主体となり、保健指導員や食生活改善推進員が住民との橋渡し役としてその活動を支えています。中でも特定健診と特定保健指導を重点的に行っており、特定健診においては平成25年度から受診料を2割から1割負担に下げたところ、受診率がアップしたようです。

○保健指導員…戦後、地域の主婦たちが保健師の手伝いをしようと自主的に呼びかけたことをきっかけに活動が始まる。受診呼びかけ、地区の健康教室の開催、また要介護・要支援状態になりそうな65歳以上の方にチェックリストを配布し、その結果をもとに包括支援センター職員がお誘い訪問をしている。

○食生活改善推進員…スローガン「私たちの健康は私たちの手で!」減塩運動をきっかけに食育活動を家庭から地域へ伝え実行することを目指し、現在26名で活動。

○高山村「アンチエイジングの里づくり事業」

健康な長寿を目指して、豊かな自然、美しい景観、安全安心な農作物など高山村ならではの地域資源を活かした「アンチエイジングの里づくり」を進めています。

①食②運動③生きがい・癒しを重点的に取り組み、保健指導委員会、食生活改善推進協議会、健康づくり推進協議会、食育推進協議会などが各々の役割を分担して活動。

特に保健指導委員会は現在49名で活動。各地区で保健予防啓発、健康づくり地域講習会などの実施、がん検診の受診率アップや特定健診受診率68.2%(H27速報値)に繋げるなど保健予防事業への取り組みが印象的でした。

※アンチエイジング…加齢による身体の機能的な衰え(老化)を予防したり改善すること



追跡!

# 一般質問

議員の質問・提言に答える町執行部、その答弁がその後どうなったのか…どう町政に反映させているのか…対応を追跡します!

## 問 高齢者の交通安全対策を！ 免許証返納者にサポート体制を！

高齢者ドライバーによる交通事故の多発で運転免許証返納の機運が高まっている。  
自主返納者に対して交通手段の支援を！

平成28年12月定例会(平成29年3月号掲載)  
平成29年3月定例会(平成29年6月号掲載)  
平成29年6月定例会(平成29年9月号掲載)

## 答 高齢者が安心して便利に 外出することができるよう 調査検討を進めたい。

高齢者の免許証の自主返納を一層進めるためにも返納者へのサポート体制を整えることが重要。こむぎっち号において優遇措置ができないか検討している。

どうなった？

## 「こむぎっち号」の無料乗車券を交付します。 (有効期間は1年間)

※申請は、お1人様1回限り。申請者ご本人様のみのご利用。

### ○対象者

申請日時時点で上里町に在住(住民登録)している方。

### ○申請方法

所定の申請書の他に、以下のいずれかの書類を添えて申請。

1. 申請による運転免許の取消通知書
2. 運転経歴証明書

詳しい内容や申請方法等については、下記までお問合せください!

○上里町役場3階総合政策課政策企画係 0495-35-1238

## 平成29年9月1日より『運 転免許証自主返納者支援事 業』を開始しました!

町では、高齢者等の交通事故防止及び公共交通の利用を促進し、安心安全でくらしやすいまちづくりを推進することを目的として『運転免許証自主返納者支援事業』を開始しました。

## 平成29年度町村議会研修会

平成29年10月19日 吉見町「フレサよしみ」

### はとバス再建から得た教訓 ～これからのあり方～

講師:株式会社はとバス元代表取締役社長 宮端清次



宮端氏は東京都庁の役人から倒産寸前のはとバスに出向して社長に就任。「会社を潰したくなかったら耐えてほしい」と

訴え、徹底した顧客サービスと社長以下全社員の賃金カットを断行。役人らしからぬ攻めのコスト改革と全社員が危機感と使命感を共有する意識改革を実行し初年度で黒字化、わずか4年で累積赤字を一掃し、同社を再建。短期間で復配に漕ぎつけた手腕は「経営幹部の行動学の鑑」としてビジネス各誌で話題になっています。

はとバス再建時の失敗・挫折から得た教訓から松尾芭蕉の「不易流行」という諺を話され、「オリジナルのものを新しいものに替えること」や「相反することを実行すること」の意であることを説明。

明日の事業運営又経営を維持・発展させるためには「現状維持は破滅」と確信している。それはなぜかという時代や社会環境は毎年変化しており、その変化に対応したものだけが「生き残れる」と言われました。

地方自治体の運営・経営についても同様で自治体によっては少子高齢化で人口減少が激しく、地場産業が衰退の一途を辿ってしまっている所も多く、自治体も格差が2極化。宮端先生は「士魂商才」という諺を取り上げ、武士の魂・精神と商人の才能を兼備することの意であり、これを鏡に「住んでよかった」「行ってみたい」「喜びを感じられる」自治体作りを考え、「信頼と支持」が獲得できる町づくりを行政・議会・町民協同で推進することが大切であると、自治体・議会の意識改革を説いております。また宮端先生は人生を貫くための生き方として「三やか」(心おだやか、体すこやか、行いさわやか)が大事であることを話されました。



東町村議長会長でもある納谷克俊議長以下13名の議員が参加

## 議会日誌

### 9月

- 1日 関東大震災朝鮮人犠牲者慰霊祭
- 4日 定例会初日(開会、町長の行政報告、一般質問)
- 5日 全員協議会
- 5日 議案審議(補正予算等)
- 6日 議案審議(決算総括説明、意見書報告、委員会付託)
- 8日 常任委員会(28年度決算審査)～19日
- 16日 上里中学校体育祭・北中学校体育大会
- 20日 全員協議会
- 20日 定例会最終日(常任委員長決算審査報告・採決)
- 24日 各小学校運動会
- 25日 児玉郡市広域市町村圏組合議会

### 10月

- 1日 公民館・児童館まつり(賀美・長幡・七本木)
- 8日 町民体育祭
- 15日 公民館・児童館まつり(上里東・神保原)
- 19日 埼玉県町村議会議員研修会
- 19日 議会だより編集委員会
- 26日 総務経済常任委員会視察研修(～27日)

### 11月

- 2日 全員協議会
- 3日 表彰式典
- 5日 ふれあいまつり
- 7日 文教厚生常任委員会視察研修(～8日)
- 12日 消防団特別点検
- 13日 郡議会議長会視察研修(～14日)
- 17日 議会運営委員会
- 17日 議会だより編集委員会
- 17日 上里町議会懇話会
- 20日 議会運営委員会視察研修会(～21日)



## 12月定例会を傍聴しませんか!

定例会は、12月4日(月)に開会予定です。  
 なお、一般質問は4日(月)、5日(火)の2日間を予定しています。

### 12月定例会一般質問一覧

	氏名	質問事項
4日(月)	齊藤 崇	① 町の交通安全対策について
		② 空き家対策について
		③ リバーサイドロードの進捗について
	沓澤 幸子	① 公立保育園建設等について
		② 子どもの貧困対策
		③ 国民健康保険の広域化について
④ 安心できる介護保険制度について		
高橋 仁	① 農業振興について	
	② 農村公園について	
	③ 食育教育について	
仲井 静子	① 子育て支援について	
	② 高齢者の移動手段の確保について	
5日(火)	戸矢 隆光	① 交番設置について
		② 災害対策について
		③ 上里スマートインターチェンジ周辺整備事業について
	飯塚 賢治	① 若者層の自殺対策強化について
		② がん検診の充実について
		③ 「災害廃棄物処理計画」策定の推進について
新井 實	① 高速道路の「途中下車」の可能について	
	② 空き家取得や多世代同居について	
	③ 地震や河川の氾濫などの大規模災害の対応について	
	④ コンパクトシティ計画について	
	⑤ 国民健康保険の制度改革について	
植原 育雄	① ウニクス上里店の出入り口へ正規の定周期信号機設置について	
	② マイナンバー制度について	
	③ 上里町の小規模開発について	
	④ 上里町の町道の寄附採納について	

発行/上里町議会 編集/議会だより編集委員会  
 住所/〒369-0392 埼玉県児玉郡上里町大字七本木55-18番地  
 TEL.0495-35-1216(直) FAX.333-2429



### 編集後記

冬  
の足音  
を感じる今  
この頃、今  
年の町民体  
育祭は秋空  
の下、字別対抗競技では老若  
男女が丸となり頑張ってい  
ました。また、神保原駅南街区  
公園「あおぞらパーク」が10  
月21日に開園し、翌日から大  
勢の子ども達が元気いっぱい  
遊んでいます。恒例となった、  
かみさとふれあいまつりでは  
大勢の方が足を運び、活気に  
満ちた会場はまさに町民のふ  
れあいの場です。高度経済成  
長を遂げ、家族や地域社会の

### 議会広報研修会に参加しました



11月16日、埼玉  
県県民健康セン  
ターにおいて埼玉  
県町村議会議長  
会主催の『議会広  
報研修会』が開催

され、議会事務局の担当者が参加しました。  
 議会広報サポーターの芳野政明氏に、より住  
民にわかりやすく伝わるための広報づくりにつ  
いて講義をいただき、議会広報の編集技術(見  
出しの付け方や写真の効果的な使い方、一般  
質問の編集方法等)について研修しました。  
 議会活動の理解と感心を深める方法の1つ  
である「議会だより」の一層の充実を図ってい  
きたいと思います。

あり方が変化し、地域力・仲  
間力が弱体化化する中、町民の  
安心・安全を確保する社会の  
仕組みを構築する必要も高  
まっています。町民の声に耳  
を傾け、今後も議会だより等  
で皆様に良いお知らせがで  
きよう心がけて参ります。皆  
様のご意見をお待ち申し上げ  
ます。

議会だより編集委員会  
 委員長 新井 静子  
 副委員長 仲井 實  
 委員 齊藤 崇、岩田 智教、植原 育雄、戸矢 隆光